

細菌性食中毒の中で最も多い原因菌はカンピロバクターです（写真参照）。
当院で検出されたカンピロバクターの件数を前のページで図にして示しましたが、
初夏から発生件数が増加していることがよくわかります。



食中毒を予防しよう！

食材調理の際に以下の3点に気をつけることで予防できます！



- ① 微生物を「**つけない**」・・・微生物は少量でも病原性があります。
 - ・肉や魚の汁が他の食品につかないように分けて保存する。
 - ・手洗いを徹底し、食品の盛りつけ時には手袋をする。
 - ・包丁やまな板は肉・野菜など用途ごとに使い分け、調理器具の洗浄と消毒を行う。
- ② 微生物を「**増やさない**」・・・室温で食品を放置しない
 - ・冷蔵では10℃以下、温蔵では65℃以上でそれぞれ保存する。
- ③ 微生物を「**やっつける**」・・・原因微生物は十分な加熱で死滅します
 - ・食材は75℃で1分以上加熱する。・カキやシジミの2枚貝は85℃～90℃で90秒以上加熱する。

最後に

南多摩病院は、八王子市内の二次救急病院で唯一細菌検査室を完備しております。
食中毒や肺炎などの原因菌を迅速に判断し、適切な治療を行っております。



医療連携室からのご案内

南多摩病院 事務部 医療連携課

当院の医療連携室には医療連携係と医療相談係（医療ソーシャルワーカー）がいます。私たちが病院でどのような業務を行っているのか紹介させていただきます。

医療連携係

患者様のかかりつけ医でもある診療所や医療機関と連絡を取り合い、スムーズに当院をご利用いただけるよう連携を図っています。具体的には、診療状況や受入体制、当院設備などの最新の情報をお伝えし、受診・入院・検査が必要な患者様に、安心してご案内頂けるよう連携強化に努めています。

また、ご紹介いただいた患者様の報告をより早く、正確に伝えることができるよう近隣の診療所、医療機関には都度、直接訪問するなど院内外で業務を行っております。

医療相談係（医療ソーシャルワーカー）

主に、ご入院中の心配事や悩み事に対して相談に応じています。
急に病気や怪我で入院した際は、様々な心配事が出てくるかと思えます。
安心して入院し治療に専念できるよう、心配事や悩み事に対して医療
ソーシャルワーカーがお話を伺い、患者様・ご家族様の不安が軽減できる
よう一緒に考え、相談をすすめていきます。



（例）退院後に自宅で使えるサービスがあるのかわからない / 介護保険や医療保険など社会
制度について知りたい / 退院後の施設や病院について相談したい etc. . .

お気軽にご相談下さい。

～編集後記～



立秋とは名ばかりの厳しい暑さが続いております。夏バテなどはしていませんか？
今号では、夏に多い脱水症や食中毒の症状・予防策をメインに広報誌を作成いたしました。
外出される際は、健康管理には十分注意して、素敵な夏の思い出作りをしてください。

次号は、秋が深まり山々も紅く衣替えを始める11月に発行予定です。 (T . O)



◆ 南多摩病院のロゴマークは、赤十字と共に、職員のすべてに対するプラス1精神を表しています ◆

今年の夏も猛暑が続いておりますが体調を崩されることなく過ごされて
いますでしょうか。今号の診療科紹介は「総合内科」です。

また、田中副院長から脱水症の予防策についての情報も発信して
おります。その他にも検査科から食中毒の予防対策についての情報や入
退院の窓口として活躍している医療連携課の紹介をしております。
どうぞ最後までご一読ください。



総合内科 General Internal Medicine

南多摩病院 副院長 兼 内科部長 田中 譲

はじめに

病院のリニューアルに伴い、診療部の診療内容も充実してきました。
昨今の病気も診断技術の向上から、多種多様になってきております。外
来受診される年齢層は、高齢の方が多いたは事実ですが比較的若い方も
見られています。疾患分類も、1) 高血圧・糖尿病などの生活習慣病、
2) 胃潰瘍・胃がん・大腸がん・肝炎などの消化器疾患、3) 肺炎・喘
息などの呼吸器疾患、4) 神経疾患、これらが大半になります。

様々な疾患に迅速に対応しておりますので、何科を受診したら良いの
かわからないという方は、まず当科へご相談ください。

関循環器科部長・井上消化器科部長の応援を含め、常勤医師6名と数
名の非常勤医師で診療を行っております。

疾患別診療紹介

◆生活習慣病

糖尿病・高血圧症に関しては、それぞれの患者様にあったベストな投薬の選択投与治療を行
っておりますが、難渋している糖尿病患者様に対しては慶応大学から来て頂いている平田医
師の専門外来に依頼し、循環器疾患で心臓血管カテーテル治療等のさらなる高度治療が必要な
患者様に対しては、当院の循環器科チームに依頼しております。

◆消化器疾患

内視鏡検査・CT 検査・MRI 検査の充実から、悪性疾患が比較的早期に見つかるようにな
ってきました。悪性疾患のうち、内視鏡的粘膜切除が可能なものは総合内科で治療し、その
他の外科的治療が必要なものは迅速に外科チームに依頼しております。肝炎などの肝臓疾患
に関しては吉岡政洋名誉院長・石塚医師を中心に診療を行っております。



◆呼吸器疾患

肺炎などの呼吸器感染症に対しては、適切な抗菌剤の治療を行い、喘息・慢性気道閉塞疾患（COPD など）の治療は、全身管理を主とし、呼吸器専門医である吉岡正剛医師を中心に診療を行っております。

◆神経疾患

脳梗塞などの神経疾患に対しては、永生病院副院長でもある加塩医師や前日本大学神経内科教授の水谷医師と大石医師を中心に診療を行っております。

◆その他

リウマチ膠原病などの難治性疾患は、当院にて対応できる患者様に対しては整形外科の泉山診療部長と前日本大学教授の澤田医師の応援のもと診療を行っております。総合内科に限らず全科対応が難しい患者様に対しては近隣の大学病院等に診療依頼をしております。

おわりに

当院では、患者様の不利益にならないようにそれぞれの患者様にあった治療を行っております。入院加療をしている患者様に対してはリハビリ科と連動し、早期離床・社会復帰を念頭に置き1年365日休まないリハビリ治療を実践しております。総合内科では、日常の外来診療に関しても「断らない診療」を実践しておりますので安心して御来院ください。



次のコーナーでは、皆様のお役に立つ情報、また南多摩病院の取組みをお知らせします。

次ページからは引続き田中副院長より脱水症の対処法、検査科からは食中毒予防についての情報がございます。どのような対策があるのか、最後まで御一読して頂けたらと思います。



医療法人社団永生会
理事長 安藤 高朗

平成27年8月29日（土）
第12回南多摩病院公開講座を開催します！

時間 : 14時～16時
場所 : 南多摩病院8階会議室
テーマ : ①前立腺のおはなし

参加費無料
先着100名様
締切8/27

～前立腺癌・前立腺肥大症について～
泌尿器科学会 専門医 宮野 佐哲
②尿もれを予防しましょう！
～尿失禁予防、対策について～
南多摩病院看護部 3階病棟 看護師

お問い合わせは南多摩病院医療連携室まで

TEL 042-663-0111（代表）

皆様の参加を心よりお待ちしております！！



第11回南多摩病院公開講座

（注意）第11回はおかげさまで大好評・会場は満員でした。定員に達しますと締切日前に受付を終了する場合がございますので、申込はお早めをお願いいたします。

脱水症ってどんなもの？知って対策脱水症講座！！
南多摩病院 副院長 兼 内科部長 田中 譲

脱水症とは？ 脱水症とは体にとって不可欠な体液が不足した状態のことをいいます。よく誤解をされますが、脱水症は単に体から水分が失われるだけではなく電解質も同時に失われた状態のことです。

原因

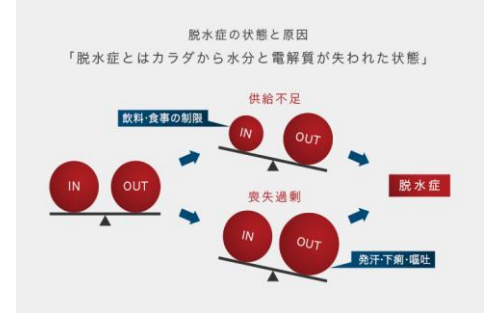
1. 飲料・食事の制限や摂取不能となり供給不足した場合
2. 発汗が多い、又は頻回な下痢や嘔吐がおこり喪失過剰となった場合

症状

軽度な脱水では症状は出ませんが、中等度以上になると血液が減ることで集中力の低下や食欲低下が起こります。また、電解質が不足することで神経や筋肉に影響を及ぼし脚がつったり、しびれや脱力が起こったりします。重症になれば痙攣・意識障害から死に至ることもあるのです。

対処方法

軽症で経口摂取が可能であれば、スポーツドリンクや経口補水液（アクアライトORS/OS-1 など）など、電解質を含んだ水分を摂取してください。ただし、乳幼児の嘔吐・下痢などに対しては経口補水液のほうがよいでしょう。重度の時には、迅速な治療が必要であり、点滴輸液を実施しなければなりませんので、すぐに近くの医療機関を受診してください。脱水症予防には、涼しい環境やこまめな水分補給、熱の放散を助けるために皮膚に水をかけたり、うちわで扇ぐなどして下さい。脱水症の予防は熱中症予防にもなります。まだまだ厳しい暑さは続きます。屋内外問わず、脱水症予防をしっかりと行いましょう。



食中毒にならないために！身を守るための3原則！！
南多摩病院 医療技術部 臨床検査科

夏は食中毒が好発する季節です。 暑い季節が始まりました。お弁当を持って出掛けたり友達とバーベキューをしたり、楽しい夏を満喫されているのではないのでしょうか？ そんな夏のひとコマも、時に苦い思い出になってしまうことがあります。夏は食中毒が多発する時期です。食中毒とは、食品中の細菌やウィルスが腸の中で増殖したり、食品中の細菌が産生する毒素を摂取したりすることで下痢・嘔吐・発熱を起こす疾患です。食中毒の原因微生物と食品には以下のものがあります。（次のページに続きます）

食中毒の原因となる微生物と食品

カンピロバクター	鶏肉など
黄色ブドウ球菌	素手で触れた食品 おにぎり、すし、サンドイッチなど
病原性大腸菌(O-157など)	牛肉、豚肉など
セレウス菌	穀類、豆類など
サルモネラ菌	鶏肉、鶏卵など
ノロウイルス	カキなど

カンピロバクター月別検出数

